
婚約帳

皐月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

婚約帳

【Nコード】

N7034L

【作者名】

臯月

【あらすじ】

私、真部美咲。学年全体の好きな人を集めて、“婚約帳”を作ってる。でも、一人だけ教えてくれなくて、困ってるんだ

今は放課後。先生のいない、教室の前の廊下で。

「ねー！好きな人、誰？？」

あたしは、今日も好きな人を訊いている。

あたし、真部美咲っていう。中1。

元気すぎて、悪く言えば落ち着きが無い。精神年齢たったの5才！
これがあたし。

詳しい自己紹介なんて、メンドクサイからこの際しない。

だって、その前に説明しなくちゃいけないものがあるんだもの！

あたしが今、手元に持っている手帳　婚約帳というんだけど、そこには学年の人達の、好きな人がずらーりと書いてあるの。

これ、作ったのあたし。

もともと恋愛なんてしなかったたちのあたしは、好きな人を聞くことだけは好きで。

でもね。

これ、作っている間に好きな人くらいできたんだ。

それが今、あたしが好きな人だれ？って聞いてる人。

「教えないつつつてんだろ！」
早乙女卓也。小学1年生から、ずっと同じクラスの、ちよつとイケテル顔立ちの男子。
全く無関心のはずが、好きになっちゃったヤツ。

最後の1人 他の皆はスルっとまではいかないけど、教えてくれたわけ のコイツは、どれだけ粘っても、教えてくれない。
まあ、そういう性格なんだけど。

でも、教えてくれたっていいと思わない？

「教えてよっ！」

「いやーだ」

「教えてってば」

「じゃ、中身見せるよ」

「いやーよ！見せてあげるから！」

言ってから思わず口をおさえる。

何いっちゃったのあたし。あたしのカバカバツ！

見せちゃいけないって人、大量にいるのにつ！！！！

「・・・それ、本当に俺以外全員書いてある？」

なっ・・・なにその疑いの目！

「書いてあるにきまつてんでしょーが！最後なんだよ、あんたが！」

「へえ。そーなんだ。じゃ、見せてもらっつぜ」

ひょい、と取られる。

「あつ、ちよつちよいちよい!!! 待って! 未だ駄目!」

急いで取り返そうと右手を出したら、ひょいと左にかわされた。こつのおくつ!!

運動神経、あたしが1だとしたら、あつちは100。

奪おうとしてもひょいひょいかわされて、あーもうきつと・・・

軽く絶望の気分。

すると卓也が婚約帳から漸く顔をあげた。

その顔は所謂

不機嫌

「どうした? 好きな人が他の人が好きだったとか? からかい口調で見上げる。」

「違う」

「へ?」

卓也が、あたしを見下ろす。目力半端ないね

「どつこが俺以外全員載ってるーだ。嘘吐きが」

卓也の口から吐き出された言葉に、驚く。

「え? どこが? 全部載って」「お前が載ってない」

その言葉にカアア・・・と顔が熱くなる。
それを隠すように卓也から顔を背けた。

「あつ・・・あつたりまえじゃん、何言ってるのよ。自分の好きな人載せる訳無いでしょーが」

「ってことは好きな人いるんだ？」
「あ！！！！！」

そうだ、いないってことになってた筈なのに！

見上げると、ニヤついた卓也の顔。
うつつ墓穴掘ったっ！

「いつ・・・いないしっ！」

「いるくせに」

「いないってば！」

「いるって言ったのと同じことさっきおまえ自身が言ったぜ？」

「・・・それはいい間違い！」

「そんないい間違いあるかよ」

ふう・・・とため息をつく卓也を見て、かあ・・・と顔が熱くなった。
これは恋の所為じゃなくて、怒りの所為！

「あんたに見られちゃ困るのよ！」
怒鳴る。

途端に卓也の目が訝しげに変わる。

「・・・何故に？」

どーせ運動神経は1ですよ！って、心の中の自分に言い訳する。
あああもう地面に後頭部強打確実！
ぎゅっと目をつぶる、と。

ぽふっ

気がつけば、卓也に後ろから抱きすくめられてるあたしがいた。

「ち、ちよっとっ！早乙女!?!」

「今、・・・教えてやるよ」

は？

「何を？」

「俺の好きな人」

はああ？

「どっという心情の変化？どうしたの？」

訳わからない！どうしてこんなタイミングでっ・・・！

「まなべ。知りたいんじゃないのか？」

「い、いや知りたいですけどもですね！」

意味がわからないって・・・!!!

「だから、言ってやるっつってんの。なんか文句でも？」
「いやいやいや！だからどうしてこのタイミングっ・・・！」

でもノってくれてるし、今のうちかも！てか今のうち！
「文句なんかありません！教えてくださいませ！！！」

ぺこっ。きっかり斜め45度。

正しいお辞儀の仕方のマニュアルに出れそうなくらい、正しいお辞儀。

「・・・俺の、好きな人は・・・」

耳元で囁かれて、耳たぶが熱くなる。

「ふむふむ。」

それを隠すように、あたしは大袈裟にうなずいた。

すると卓也の抱きすくめる腕の強さが、強くなる。

「ちよいつ・・・卓也、くるしっ・・・」

途端。

パツと離れる、卓也の腕。

急に離れた所為で、前につんのめる。

「だーれがお前なんかに、教えてやるかよっ！」

そういつて、あたしのおでこにデムペンして。

校門に向かって走り去っていった。

「はあ！？教えてくれるんじゃないの！？」

ギロつと睨みつける。

くっそお、結局あたしはからかわれてただけなのか！！！！

なんだか、あたし一人興奮してたみたいで、恥ずかしいじゃない！

さっきまで、卓也の吐息が触れていた耳を押さえた。

「あたしだけ好きで、莫迦みたい・・・」

あたしだけ、卓也なんかには翻弄されて。

空と同じ色の熱を持った頬つぺたを隠すように、そっと包み込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7034/>

婚約帳

2010年10月19日02時46分発行